

らひた

第
五
號



大正十一年

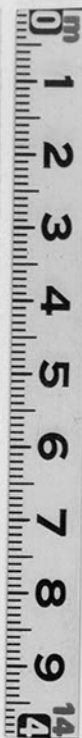
同人創作
川柳

絶對の二字があぶない禁酒なり
飯にする積はないこへお書伯
神酒を飲む心に浮ぶみだら唄
川風に誘れて行く酔つばらひ
紙屑を拾ふに變な目をくばり
許嫁眼ではなす癖かつき
本望をさげる夕のまぶしい灯
馬の糞ころがしてある空つ風
戀逢けた當座誇りの赤てがら
晝あそびこの前讀んだ本を借り
藝術に凝つて二男の身が持てず
天災にお客が殖ゆる育兒院
酔覺の水へ女房の顔かうき
性慾の野心へ捨てる泡く銭
肉の香の包圍に後家は若返り
内職の妻に盃遠ざける
出帆の漁船に揺れる港の灯
ウキンドの病に女房又迷ひ
寫真より口が大きいなと思ひ
遺言にない身代を妾持ち

文 夢 無 一
狂 耶 二 智
味 醉 角

東
天
紅

新
坊



△俳句雜吟

初冬となりて目につく野山哉
噓して渡るや橋の霜白う
水すみて石の白さや冬の川
庭口に風呂焚く尼や冬日影
一輪の菊に庵のともしかな
月今宵屋根を流るく光かな
夕榮の水を流るく紅葉かな

松窓
陽氣坊

千里

募集吟

萩 川前 中村香林先生選

五客 萩の戸や脱き揃へたる京草履 萬袋
雞の蹴散らして行くこほれ萩 一夢
庭掃けば散て居るなり萩の花 花垂
柴折戸を叩けば應とはぎの主 一醉
馬方も馬も肥えたりはぎの里 均一
萩の戸や主客興して樂焼に 鬼丁字
一嵐水も治まりばぎの月 一醉

△川柳雜吟

月給日またも道具が一つふえ
送り出す素足の白い紺蛇の目
氣に掛る行手の影も一つなり
久しぶりこんな所に家が出來
今日も亦二食で暮れる新世帯
針運ぶそばで大の字薩摩琵琶
延す丈延ばす猪首の牡丹刷毛
金口の煙管安樂椅子により
下駄の鈴日傘を廻はし來る
再婚は致ませぬとタイピスト
母さんの晴衣へ袖を着けに來る

絃子

柴香子

陽氣坊

募集吟

畫寢 北海道 田中五呂八先生選
畫寢する渡世二食で日がくれる 夢二郎
避暑の留守書生畫寢に草臥れる 新坊
郵便屋畫ねが起きる迄吐鳴り 全

天 猪に踏まれし秋のみだれかな 一夢
風誘ふ小雨にはぎの散る日哉 香林

第三回平吟社會集

下駄で來て一蹴はるや月の芋 天仙
庭の端に芋一うねや詩仙堂 一角
朝門や笹の青みへ計りいも 鬼丁字
野狐の月に媚ふ夜や遠きぬた 天仙
行暮れて訪ぬる家や砧うつ 新平
底響きするや隣の藁きぬた 向峯
醉ふて戻れば砧打つ燈の我を射る 雅山
夢覺めし戀あはれなり秋の蝶 鬼丁字
二つ居て一つは舞はず秋の蝶 萬袋
温泉の宿に残る詩客や秋暑し 天仙

第四回平吟社會集

宿題「崩築」

永山香夢選

人 崩れ築あつめて梵くや道普請 一角
地 崩れ築二日月凄き光りかな 萬袋

人 日曜晝寢をすれば友が來る 東天紅
打つ違ひ晝ねをなして土工部屋 一角
餘つ程の疲れ晝寢に灯がこもり 新坊
隣室のひる寢を起す梨子の味 東天紅
電燈がついて目醒める避暑の宿 一醉

第四回平吟社會集(一醉氏宅に於て)

宿題「飯」「酒」

綿引東天紅選

人 駈落の飯も食はずにまひ戻り おさる
永生きをほめていたく般若湯 一角
夕暮に立つて甕がめしこくひ 無智味
地 上席の下戸盃にこりまかれ 一醉
娘を賣つて又飯にする人非人 夢二郎
天 祝言に來てもやつぱり泣上戸 一角
輻 冷めしに馴れて藥の味しらす 東天紅

席題吟佳句

大雨を酒にして居るなが屋衆 無智味
大雨に燕夫婦がぬれてくる 東天紅

天 軸 人 地 天 抽

増水や遂にくつるゝ三のやな
風音にうすれ行く陽や崩築

秋の空

八島鬼丁字選

文 狂
香 雪

フト仰く秋空に陽の傾きて
銚して一機飛びけり秋のそら

香 雪
一 醉

秋の空だゝ黙々とあふぎけり
陽のたる朱の山門やあきの空

天 仙
鬼丁字

席題『稻筵』『草花』(高點句)

互選

野狐の人なつかしむくさの花

一 夢

草ばなや河一筋をくにざかひ

萬 袋

酒藏の見ゆる小里や稻むしろ

鬼丁字

山越せば再び稻のむしろかな

おさる

國造の石碑たかしいなむしろ

香 雪

積善の長者が門やいなむしろ

天 仙

雲間より金箭降るやいなむしろ

一 夢

筑波吹く風ゆるやかに稻むしろ

一 醉

我庵も富める心地やいなむしろ

萬 袋

川風に嫋られて居る赤い袖 おさる

形勢が非也と見れば酔たふり 餘花郎

新婚の夢には邪魔な谷の音 一 醉

足弱に川越してやる肩ぐるま 夢二郎

第六號課題(各題十句以内)

川柳

山

高木角戀坊先生選

俳句

雲

瀧川愚佛先生選

◎和歌俳句川柳等ノ雜詠、數に制限なし

福引

三澤千里先生選

◎切一月二十日

用紙半紙型各題別紙の事

◆投句所

社内綿引東天紅宛

◆第六號課題

水仙

◎本誌毎月一回月末發行(非賣品)

草鞋

◆川柳

影

發行所

福島縣平町一丁目二〇、綿引方、

たひら 含 社

印刷所

福島縣平町田町七十番地

高橋 活 版 所

大正十一年十二月三十日發行